

# コープ災害ボランティア ネットワークニュース

発行2013年10月 第67号  
東京都生活協同組合連合会  
コープ災害ボランティア  
ネットワーク幹事会  
TEL03-3383-7800

## 第13期コープ災害ボランティア養成講座スタート!

今年度は77名(組合員70名・職員7名)の申し込みがありました。9月21日(土)、66名が参加して、東京都生協連会館で第1回開講式を開催しました。

### ◆あいさつ(東京都生協連竹内専務理事)

首都直下型地震が起きたときには、都民1人ひとりがどのように家族を守り、地域で対応していくのかが問われている。皆さんが主役となって地域の中でどう災害に対応していくかを考えていただきたい。



### ◆講座の目的とすすめ方(コープ災害ボランティアネットワーク・大矢代表幹事)



この講座は、次のステップに進むためのきっかけの講座です。ボランティアで貢献できたことは実際は小さくて、体験を通して学んだことの方がずっと大きい。お客様にならずに主体的な参加を。家族や友人、地域で伝えて広めていくことがいちばん大切。



### ◆講演(東京災害ボランティアネットワーク・福田事務局長)

ボランティアの「存在」そのものが元気や勇気を届けられる。この講座では具体的な知識やテクニックよりも、「気づき」が得られる。被災地では、交流やコミュニケーションを重視して活動を続けてきた。災害が起こる前の防災減災活動が、結果的には役に立つ。いざという時に支援を受ける力「受援力」は連携で高められる。『人を救えるのは人しかない。』



## グループワークショップで交流しました

●住んでいる地域でグループを分けたので、初対面の受講生も打ちとけやすい雰囲気ですすすめられました。

突然の『今、かばんの中に入っている物で、災害時に役に立ちそうなものは?』で楽しく交流中!



東日本大震災が起きたあの日あの時、私はどこで何をしていたかを交流しました。体験談の発表もありました。



被災者支援で必要なのはテクニックではなく「寄り添う心」だという言葉に心を動かされた。個人では何もできないと思っていたが考えが変わった。ボランティアが身近に感じられて安心した。かばんの中の役立つ物についてとても参考になった。忘れかけていた防災意識を思い出した。家族で話し合いたい。地域ごとのグループが良かった。いろいろ気づき学んでいきたい。講座が楽しみ。(受講者アンケートより)

# 支援活動はこれからも継続していきます！

東日本大震災発災直後から、東京災害ボランティアネットワークとともに宮城県登米市を中心とした支援に継続して取り組んでいます。最近の活動から、いくつかをご紹介します。

※東京災害ボランティアネットワークは、2013年3月末をもって、被災地での支援活動は、現地の地域団体に引き継ぐ形で終了しています。今年度は、この2年間でつながりができた仮設住宅や地域の方々との訪問交流活動を、東日本震災被災者支援活動として実施しています。

## 被災地での支援

### 横山不動尊の「厄流しそうめん」支援

パルシステム東京、東都生協、東京都生協連から4名が参加



8月4日（日）、登米市津山町の横山不動尊「厄流しそうめん」イベントに参加、そうめんのゆで上げや、かき氷作りを担当しました。山門から50メートル以上の長〜い竹製の仕掛けは地元の皆さんの力作です。南三陸町からの仮設住宅の方たちも参加されていました。



津波の爪痕がいまだに残る南三陸の海岸地域、3か所の仮設住宅、志津川の「南三陸さんさん商店街（仮設）」などを訪問しました。私たちのトレードマークは赤い帽子です。仮設住宅の皆さんは、「赤帽さん、こんにちは〜 久しぶり〜！」と、あたたかく声をかけてくれます。

### 南方第Ⅰ第Ⅱ仮設住宅の夏祭りイベント支援

コープ災害ボランティアネットワーク幹事、東京都生協連の3名が参加

8月20日（火）、夕方5時から8時まで「夏だ！みんなで盆踊り」がイオン南方店跡地で行なわれました。地元登米市の皆さんの事前準備やポスター作成、チケット販売、会場設営等（草むしりや椅子・テーブルのセッティング、音響やステージ・大漁旗・ぼんぼり等）支援もあり、仮設生活者だけでなく登米市で暮らす方々が集まっていました。盆踊り、カラオケ、よさこい、抽選会と、地元商店街やボランティア等の出店、子供向けとしても企業や高校生ボランティアによる企画等さまざまなイベントが行われました。



赤帽はフランクフルトの販売、自治会女性部によるかき氷の手配と焼きそばをお手伝いしました。翌日、これまでお世話になった、3か所の仮設住宅を訪問し交流しました。



自治会の皆さんが中心となってお祭りを運営し、また、高齢者の方々もデイサービスの窓から準備の様子を覗くなど、楽しみにしておられる様子がうかがえて、皆さんのこころが前を向いて動き始めていることを実感しました。子どもたちの姿が大人を勇気付け、前を向く原動力になってくれているようです。

仮設住宅を訪問して感じたことは、仮設住宅の空きが増える傾向の中、南三陸町に戻る人はほとんどなく、仮設周辺に転居する方が多いとのこと。次の段階として、自宅再建が難しい人向けの災害公営住宅（復興住宅）の入居が始まっているところもあるようです。しかし仮設住宅を離れるにあたり、新たな不安や戸惑いを抱えていて、もうしばらくはこのまま仮設住宅で住むという方が多いようでした。次の住まいをどうするか被災地の現状はまだまだ先が見えないと感じました。（参加者の感想から）



◆被災地からの都内避難者数は、8月現在8,828名です。(都総務局公表)

東京での被災地支援のひとつとして、中野区に避難している方の参加の場を、中野区社会福祉協議会が都の避難者孤立化防止事業として開催しています。

## 東京での被災地支援

### 親子で集まれ～！わいわい！広場!!

■都営鷺宮住宅では、8月22日、5組の親子が参加してくれました。被災地の新聞を熱心に読んでいるお母さんの横で、子どもたちは元気に遊んでいました。この日はスタッフの1人が、自宅からめずらしいカメと熱帯魚を持ってきてくれて、みんなびっくり～！

間近で観察できて、楽しんだのは大人の方だったかも!?



◎わいわい広場は、東京都生協連が主催し、CO災ボメンバーのボランティアにより運営されています。興味のある方は東京都生協連へご連絡ください。オリエンテーション(説明会)のご案内をさせていただきます。

### 来らせしらさぎ

■同じ都営鷺宮住宅の集会所では、毎週金曜日 10:00～15:00 に「来らせしらさぎ」が開催されています。中野区社会福祉協議会が運営していますが、被災地の方もスタッフとして関わっています。ここに、CO災ボのメンバーも参加しています。

## 防災フェア 2013 六本木

8月31日、9月1日の2日間、六本木ヒルズアリーナ他で内閣府主催の「防災フェア」が開催され、約15,000名が来場しました。

日本生協連のブースには1,200名以上が立ち寄り、「防災チェックボード作り」体験を楽しみました。

東京都生協連とCO災ボの幹事が協力して、パネル展示の生協の東日本大震災の支援活動やCO災ボの活動を紹介しました。



日本生協連のブース



その場で撮った写真と、かわいい飾りをつけて、自分だけの防災チェックボードが完成です!



活動報告のパネル展示